

暗唱のすすめ 百人一首編⑪

五十一 かくとだに えやはいぶきの さしも草ぐさ

さしも知らじな 燃ゆる思ひを

ふじわらのさねかたあそん
藤原 実方朝臣

五十二 明けぬれば 暮るるものとは 知りながら

なほうらめしき 朝ぼらけかな

ふじわらのみちのぶあそん
藤原 道信朝臣

五十三 嘆きつつ ひとり寝る夜の 明くる間は

いかに久しき ものとかは知る

うだいしょうみちつなのはは
右大将 道綱母

五十四 忘れじの 行く末までは かたければ

今日を限りの 命ともがな

ぎぶどうさんしのはは
儀同三司母

五十五 滝の音は 絶えて久しく なりぬれど

名こそ流れて なほ聞こえけれ

だいなごんきんどう
大納言公任